

# アートがアートである為に

Artocolony

## 微信

渡辺育

2015

映像

日常と切断された場所で、あるいは異なる言語環境においてつまり私は私の「家」を遠く離れて一何に接続しどのような関係性の物語を紡ぐことができるだろうか。いかにして私の「家」的なものをそこに認めることができるだろうか。この作品は、私が中国を漂い横断しながらそこに息づく人間や風景と出会い、そこで交わされた交感を記録し、一つの映像詩として纏めたものである。

タイトルの「微信」とは中国のSNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）の呼称で、GoogleやFacebook—そしてLINE—といったWebの閲覧が厳しく規制される中国において尚、人々はこのような微小な信号のやりとりを求めてドメスティックなメディアをつくり、そこで交流を図っている。異人である私が、彼らと微かに交わす会話、周りを通りすぎてゆく微かな記憶の痕跡—そのような離散的で、とりとめのない人間関係や風景の集積こそが、今の私にとっての「家」なのかもしれない。

## 「あなた」から離れて

大倉佑亮

2015

ビデオ、ネオン管

「あなた」というのは、わたしをも含めた、この世界に生きている全ての人のことです。様々な国籍、人種、性別、宗教などを持っている、人間のことです。前世紀における戦争の反省からでなくとも、21世紀に生きるわたしたちは、そのような多様性を認めなければならないことを知っています。

パリでテロがあった後、人々に様々な反応がありました。Facebookのプロフィール写真をフランスの国旗の色に変える機能ができ、そうした機能を利用する人々を批判するような議論がありました。

知人がいたり家族がいたり、行った事のある所に関心を寄せるのは当たり前で、そうでない所への想像力を持つことの方がはるかに難しく、そのことを考えたいと思いました。

そして、非暴力的なやり方で、なおかつ、自分の身体感覚を伴いながら、まだ見ぬ人のことを想像し、思いを馳せることが出来るかもしれない、マスターベーションという手段に注目しました。

実践的な点においては、おそらく何の意味もないこの行為は、意味がないからこそ、哀しく、少しだけ可笑しく美しいのではないかと思っています。





## 18Hz & 60Hz振動

パン 宇年

2015

18Hz & 60Hz振動

絵の具を音の振動で弾かせて、高速カメラで撮った写真である。CGではなく、振動に使った周波数はサイン・ウェーブ (sine wave) 18Hzと60Hzである。

写真を青、赤、白黒のテーマに分け、立体的に飾ることで、トイレ利用者の心の奥からリークしている感情を具現化している。青は理想と抑鬱、赤は情熱、白黒は現実と空虚、それぞれトイレ利用者の利用前、利用中、利用後の感情を反映している。

## 現代遊行絵伝

伊勢武史

2015

文明社会の不都合な真実—それがマンホールだ。街じゅうにあるマンホール。ふだんからたくさん目にしすぎて、私たちはそれを知覚することすらやめている。しかし、マンホールがなければ文明生活は成り立たない。

アスファルトとコンクリートの「清潔な街」を維持することは、必然的に何を要求するだろう。

今回は、トイレにマンホールの作品を展示することで、汚水の流れていく先に思いを馳せることにする。



## ゴリラに見つめられながら

大塚亮真

ぼくはゴリラが大好きだ。だからゴリラに関わることにすべてについて真剣に、そして誠実に考えていきたい。日本の動物園ではゴリラが排泄をする姿を人間たちが見つめ、様々な反応をしている。その姿を何か不思議だと感じ、今度は人間がゴリラたちに見つめられながら排泄をするという空間を作ってみたくなった。